



真っ直ぐな道はさみしい

ガレージハイブリット
金子の

第4号

大好きなドリアンとコリアンダーの国

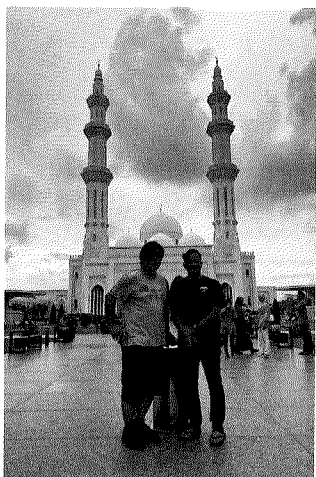
～永遠の夏を生きる人と～

「砂漠が見たくなってね。でも着いたのはマレーシア あこがれの南」で始まる上田現のオリジナル曲を知っていますか？ 上田現はLÄ-PPISCHの元キーボードで『ワダツミの木』の作者です。その曲名は「コリアンドル」。

子どもの頃はアフリカに憧れて、バイクで旅するようになり「沖縄」に住んでしまった僕は、ガレージ・ハイブリット開店後に縁あってマレーシアでオフロードライドを企画するようになったのは必然だと思っています。25年以上現地のオフロードライダーとレインフォレストのジャングルを走っています。一緒にツーリングした日本人は延べで300人超えにもなって、ちょっとした国際交流になっているのでは？ と思います。さらに、日本からの海外ツーリングは国境超えてのタイやシンガポール、またミャンマーやインドネシアの旅も企画していますが起点はマレーシアです。

コロナ禍で事実上の国境封鎖状態を経て、ここへきてどの国も入国の制限緩和となってきたので、試験的に渡馬で来年の打ち合わせをするために出張してきました。直行便はまだ高いのでシンガポール経由のLCCで。何年も通っている国なので、空港から出て感じる濃密で赤道直下の太陽の残滓を纏う夜の空気も、今回は海外旅行の高揚感より懐かしさを覚えました。時差は1時間でマッハ0.8で飛ぶジェット旅客機だと約7時間程で、その曲の舞台の常夏の国にワープします。マレー語ほか、多くの言語といろいろな肌の人や服装の人たちの波間を漂うと、自分が異邦人であることは忘れてしまえるモザイク国家なのです。ナイトマーケットで薫るドリアンの香りに、夏

が終わり、寂しい季節を迎える日本から、「永遠に夏の国」に来ると僕は心の安定を取り戻すのです。



～ Malaysia Boleh/Wawasan2020 ～

1997年に初めて訪れたマレーシアにハマってしまったのは、懐かしいという感覚、遠い昔から知ってる場所で探し続けていた「原郷」は此の国だった！ と思ってしまったのからです。「Malaysia Truly Asia」は観光局のキャッチコピーです。少数民族を含めた多民族国家で、イスラム教だけでなく各種宗教を持った人々と文化の多様性は、確かに「アジアのすべてを内包している」と感じます。

その4半世紀前のマレーシアは、当時の日本に比べると経済的にであったり、工業振興の部分やインフラでは遅れていた感がありました。街を走る車も、80年代の日本の大衆車がボコボコの状態で使われていたり、縦目ベンツタクシーに乗ったらフロアに穴が開いていたり。首都クアラルンプールの街の公共交通はミニバスというピンクの小型で、ドアを開けばなしで走るバスと、メーターではなく交渉で乗るタクシーなどでした。

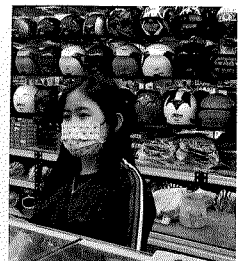
その後は、年数回を訪れるようになりました。その時間経過の中で首都空港が新しくなり、光ネットワークが引かれて、空港と旧市街の間に新行政府と電脳都市とハイテク工業団地が10年経たずに「出現」という表現しかできないスピード感で変化していきました。

インフラの整備スピード、公共交通機関も5年と経たずにモノレールとLRTが整備され、都市近郊には高層住宅群が増殖しています。街を走る車もピカピカの高級車や新型車で埋め尽くされています。国内の政治的な問題やプミブドラというマレー人優遇政策、イスラム優遇であったりと問題はあるにしろ、政策決定からの実行までの速さは、日本の成田空港とセパン空港(ちなみにF1サーキットは空港公団の運営です)を比較するまでもなく、経済政策だけでなく、例えばパワーポリティックス的であっても、そのダイナミズムは何人首相が変わっても「停滞」から抜け出せない日本と比較すると、羨ましい限りです。

現地をツーリングした体感でも、マレーシアのポテンシャルを実感します。それは石油、天然ガスやボーキサイトなどの資源や交通の要所だったり、オイルパームや天然ゴムという昔は植民地の代名詞も、今や戦略産業資源的な農業に変化しています。その実業以上に感じるのは、マルチカルチャーの強みで、言語もアルファベット表記で話者14億人というインドネシア/マレー語を母国語に、ほぼ全国で

普通に通用する英語、中国系の人はマンダリンを学び、さらに華族の中国語(福建、広東、客家語など)を話し、インド系はタミル語ほかバイリンガルは普通で、マルチリンガルも多いのです。もうそれだけで日本人は勝てないじゃん？ って思ったりしますが、その国際感覚を持って海外へ出ていくのに躊躇はありません。断食明け大祭や旧正月に、家族が複数の国から帰郷するのも普通です。

翻って日本は？ 英語(英会話)教育も中々進まず、日本に仕事で定住する外国人は多いと思っても、チャンス求めて外国に個人で行く人は少なく、インバウンド需要を期待していても、観光地に両替所や外国語でのサービスの少なさなど。それが日本だ！ といっても不便なものには変わりないです。コロナが落ち着いて海外交流再開になるであろう来年は、現地の人と旅人として接することができるレンタバイクでツーリングなどに出かけて、母国を振り返ってみてはいかがでしょう？ 英語が通じて、漢字文化があり、左側通行、なによりやさしい人が多いマレーシアは最初の海外旅行、海外ツーリング地としてお勧めです。



マレーシア上陸初日は、クアラルンプールのバイク屋街に行きました。活気があり、若い人たちが多く動いています。もちろん商品も魅力あるものが多いです。過ぎ去りし「上野のバイク街」を想い起こしました。

金子幹典

工業高校から自動車整備業界に就職して工場長を経験して26歳の時にガレージハイブリットを開業して35年、オフロードバイクの販売修理をメインにイベントや海外ツーリング等も運営、最近では整備士養成も力を入れています。沖縄とアジアが大好きです。